

平成30年度第3回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会

平成30年10月5日（金）

【黒川（保健福祉部次長）】 皆さん、こんばんは。保健福祉部次長の黒川でございます。よろしく申し上げます。

それでは、ただいまから平成30年度第3回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会を開催いたします。

委員の皆様には、お忙しい中、ご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

それでは、会議に入ります前に資料の確認をさせていただきます。座って失礼します。

本日、お手元にお配りしました資料としては、平成30年度第3回桑名市総合医療センター評価委員会次第、資料1、第2期中期目標期間終了時に見込まれる中期目標期間における業務の実績に関する評価に対する意見について、資料2、第2期中期目標期間に係る事業報告書【見込】、資料3、平成26事業年度～平成29年度地方独立行政法人桑名市総合医療センターの各事業年度に係る業務実績に関する評価結果、資料4、第2期中期目標、資料5、中期目標期間終了時の検討及び措置（案）についてでございます。そして、最後に席次表でございますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

次に、本日の議事進行につきましてご説明をさせていただきます。

本日は、まず、中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間における業務の実績に関する評価につきましてご意見をいただきたいと思っております。これまで、中期目標期間終了後に評価を行っていただいておりますが、平成30年4月施行となりました地方独立行政法人法の改正法において、新たに中期目標期間終了の直前の年度に市長が見込みの評価を行うことと、あらかじめ評価委員会から意見を聞かせていただくことが定められました。見込み評価を行うことにより、中期目標期間の業務の評価結果を次期中期目標の策定や法人の組織、業務の見直し等に適切に反映させることができるというものでございます。その後、中期目標期間終了時の検討及び措置についてご意見をいただきたいと思っております。

それでは、本日の議事に入りたいと思っております。豊田委員長、会議の進行をよろしくお願いいたします。

【豊田委員長】 それでは、早速ですけれども、本日の議事に入りたいと思っております。

今回、このような評価委員会を持たせていただいたのは、地方独立行政法人法の改正と

というのがございまして、次期の中期目標の策定に組織や業務の見直し等を反映させるために、中期目標期間が終了する前年の年度に市長が見込みの評価を行う、そういうふうに変更になりましたので、そして、市長に対して評価委員会から意見を言うということでございますので、今日的评价委員会が設けられたということです。昨年までは前中期目標期間が終わってから評価したんですね。逆なんですけど、事前に見込みの評価をするということに新たに変わったということでございます。

それでは、事務局から、評価の進め方等につきまして、ご説明をお願いしたいと思います。

【黒川（保健福祉部次長）】 それでは、中期目標期間終了時に見込まれる中期目標期間における業務の実績に関する評価について、ご説明を申し上げます。

資料の1、第2期中期目標期間終了時に見込まれる中期目標期間における業務の実績に関する評価に対する意見についてをご覧ください。

まず、1、評価の進め方でございますが、評価委員会は、法人から提出された事業報告書【見込】をもとに、法人からのヒアリング等を踏まえて業務実績を調査、分析し、総合的な評価を行うとさせていただいております。まず、法人から提出されました資料の2、第2期中期目標期間に係る事業報告書【見込】をもとに法人から説明をしていただきます。次に、これに対しまして、評価委員会として、項目別評価、これは大項目評価でございますが、それと全体評価をお願いいたします。

では、次に、2、項目別評価（大項目評価）についてご説明を申し上げます。

項目は、市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項、そして、業務運営の改善及び効率化に関する事項の2つでございます。各項目ともに、第2期中期目標期間の平成26事業年度から平成29事業年度までの評価結果とその4年間の平均、平成30事業年度の見込みを表にしております。平成30事業年度につきましては、見込みであるため、大項目評価のみの案となっております。

こちらを踏まえつつ、第2期中期目標期間5年間の業務実績の見込み評価を行っていただきたいと思っております。評価の方法としましては、太枠で囲ってあります中期目標期間の項目別評価の方法をご参照いただき、5段階による評価をお願いいたします。

次に、3の全体評価の方法についてでございますが、全体評価の方法としましては、評価委員会において、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の全体的な進捗状況についてご意見をいただく形で評価を行っていただきます。評価においては、法人化を

契機とした病院改革の取り組み、法人運営における自律性、機動性の発揮、財務内容の改善、病院運営の透明性の向上などを積極的に評価することとしております。

これらの基準を踏まえまして、第2期中期目標期間全体の評価として、次期中期目標に反映させるための評価とご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

以上でございます。

**【豊田委員長】** 第2期中期計画である平成26事業年度から平成29事業年度までの評価結果、これはこの表にもあるわけですが、それと、平成30年の事業年度の見込みから、大項目の第1と第2について、それぞれについて、中期目標期間全体も見込み評価ということになるわけですが、それをしてから全体の評価をするということになります。

それでは、第2期の中期目標期間の事業につきまして、法人のほうから報告をお願いします。

**【北野（経営戦略室室長）】** 管理部の北野でございます。私のほうから、資料の説明をさせていただきます。

資料の2、第2期中期目標期間に係る事業報告書【見込】のほうをお開きください。

まず、1ページ目、中期目標の期間でございます。中期目標の期間は今回、平成26年4月1日から、来年平成31年3月31日までの5年間となっております。

なお、これまでの5年間に中期計画を2度変更いたしております。1度目は、平成28年2月1日に新病院開院時期の変更がありましたために変更しております。次、平成30年1月1日に新病院の開院に伴い診療料金等の改正を行ったために変更を行っております。

続きまして、平成30年度、本年度の業績見込みについて順次ご説明をさせていただきます。なお、業績見込みにつきましては、今年7月31日時点での業績の実績をもとに見込み値を作成いたしておりますので、ご承知おきください。

では、1ページ、下段からお願いいたします。左端の列が桑名市におきまして策定いただきました中期目標、中央が法人にて作成いたしました中期計画、右端が過去5年間の業務実績となっておりますのでよろしくお願ひいたします。

中期計画の大項目、第1、市民に対して提供するサービス、その他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置。

中項目の1、医療の提供。

こちらにつきましては、まず、救急医療の実績としまして、365日24時間救急医療

体制の維持、救急科を設置し、救急科専門医を配置、小児科医師を増員し、小児救急の受け入れを再開したこと、以上を実績として掲げております。

救急搬送の受け入れ件数については表のとおりとなっており、平成30年度につきましては、4,300人の受け入れ実績を見込んでおります。

次に、周産期医療及び小児医療につきましては、ハイリスク分娩を含む周産期医療を開始したこと、NICU新生児特定集中治療室を設置したことを記載しております。

3ページ、お願いいたします。

がん医療につきましては、三重県がん診療連携推進病院の指定を受けたことと放射線治療装置リニアックを稼働させたことを記載いたしております。

次に、脳血管障害、循環器疾患につきましては、SCU脳卒中ケアユニットを継続して運用していること、核医学検査装置SPECTを稼働させていること、さらに、心臓血管外科手術を今年度より開始していることを記載しております。

次に、消化器疾患につきましては、腹腔鏡下手術等の低侵襲医療を推進していることを記載いたしております。

疾患別の入院患者数につきましては表のとおりとなっており、平成30年度は、がんが750人、脳血管障害が600人、循環器障害が2,000人、消化器疾患が2,600人をそれぞれ見込んでおります。

次の4ページには、こちらを棒グラフのほうで示しております。

また、手術室につきましては、過去5年間の手術件数を記載いたしております。平成30年度は2,700件を見込んでおります。

5ページをお願いいたします。

手術件数についても棒グラフでお示ししてございます。右端の棒グラフ、平成30年度見込み値の上にひし形の点が打ってございますけれども、こちらが中期計画で当初定めた計画値でございます。

次に、小項目の2、地域医療連携の推進につきましては、過去5年間の紹介率を表にして示しております。平成30年度につきましては、今のところ45.0%を見込んでおります。

また、次の6ページでは、逆紹介率の過去5年間の実績をお示ししております。平成30年度については60.0%を見込んでおりまして、こちらは中期計画の計画値とほぼ同じ実績値を見込んでおります。

また、地域連携パスにつきましては、脳卒中連携パス及び大腿骨頸部骨折の連携パス、この2つを中期計画では目標値として定めておりました。これらにつきましても、平成30年度はそれぞれ60件ずつ、中期計画とほぼ同じ程度の件数を実績として見込んでおります。

7ページをお願いいたします。

地域包括ケアシステムの構築に向けて退院調整を進めること、というのを中期計画では定めておりました。今年度の実績値は約1,500人、中期計画で定めた計画値とほぼ同等の数字を見込んでおります。

次に、小項目の3、災害時及び重大な感染症の流行時等における医療協力につきましては、災害時及び重大な感染症の流行時等における医療協力体制の整備を行ったこと、新病院に感染症患者用病室（陰圧室）を設置したこと、また、こちらは今年度の計画ではありますが、大規模災害対策マニュアルを策定することを実績として記載いたしております。

次に、中項目の2、医療水準の向上。

まず、小項目の1、医師の確保につきましては、三重大学等の支援により常勤医師を確保していることを実績として記載させていただきました。

次の8ページには、過去5年間の常勤医師数の推移をグラフでお示しいたしております。平成26年4月には83人であったところが、ほぼ右肩上がりに増加いたしており、今年4月の時点では108人となっております。

次に、小項目の2、研修医の受け入れ及び育成につきましては、計画的に設備及び医療機器の整備を進めるとともに、各種専門医の研修施設認定を促進し、初期研修医枠11人、後期研修医11人を確保いたしました。こちらの人数は平成29年度の実績値でございます。

次に、小項目の3、看護師の確保及び定着につきましては、関係教育機関との連携を強化し、看護師を確保していることを記載いたしております。

常勤の看護職員数についても、棒グラフでお示しいたしております。こちらもほぼ右肩上がりに増加しております。平成26年4月では338人でありましたが、今年4月の時点では379人となっております。ほぼ計画どおりの人数を確保できているところであります。

次に、9ページをお願いいたします。

こちらには、先ほどご説明しました常勤の医師、初期研修医、後期研修医、看護職員について、それぞれ数値でお示しいたしております。

次に、10ページをお願いいたします。

中項目の3、患者サービスの一層の向上。

小項目の1、診療待ち時間等の改善、こちらにつきましては、外来患者アンケートにて待ち時間に対する満足度の把握を行ってきたこと、また、再来受付機、自動精算機等の運用方法を見直し、患者さんの混雑緩和を図っていることを実績として記載いたしております。

次に、小項目の2、院内環境の改善、こちらにつきましては、新病院の敷地内禁煙を実施していること、医療通訳者の増員を行ったこと、市民ボランティアによる患者案内を実施していることをそれぞれ実績として記載いたしております。

小項目の3、職員の接遇の向上、こちらにつきましては、患者アンケートや投書箱等を通じて患者の意向を把握していること、全職員を対象とし、定期的に接遇研修を実施していることを記載いたしております。

次に、中項目の4、より安心で信頼できる質の高い医療の提供。

小項目の1、医療安全対策の徹底につきまして、医療安全対策室にて医療事故やヒヤリ・ハットの収集及び分析を行っていることを記載しております。

11ページ、お願いいたします。

小項目の2、信頼される医療の提供、こちらにつきましては、インフォームドコンセントの徹底、セカンドオピニオンの実施、個人情報保護規程に基づく診療録の適切な開示を実績として記載いたしております。

小項目の3、施設設備の整備及び更新、こちらにつきましては、今年度、新病院が開院したこと、それに伴い電子カルテシステムの更新を行ったこと、また、患者用駐車場の拡張について検討を行っていることを実績として記載いたしております。

小項目の4、市民への保健医療情報の発信及び普及啓発等につきましては、広報、桑名市総合医療センターニュースを定期的に発行していること、市民公開講座を継続して開催していること、患者教室、肝臓病教室、減塩教室、糖尿病教室、母親教室をそれぞれ定期的に開催していることを実績として記載いたしております。

次に、12ページ、お願いいたします。

中期計画の大項目の第2、業務運営の改善及び効率化に関する事項。

まず、適切かつ弾力的な人員配置につきましては、3病院合同の経営企画会議を定期的で開催し、理事長の経営方針の推進を行ってきたこと、また、医師をはじめ、各職種にお

いて病院間の業務応援や人事異動を実施したことを実績として記載しております。

小項目の2、職員の職務能力の向上につきましては、医師を含めた人事評価制度の運用を開始したこと、また、認定看護師や専門看護師等の資格取得を推進したことを記載しております。

小項目の3、職員の就労環境の整備につきましては、今年度、院内保育所（病児保育を含む）を改修棟内に設置したことを実績として記載いたしております。

13ページをお願いいたします。

小項目の4、業務改善に取り組む組織風土の醸成につきましては、管理職会議等において各部署からの発言を促すとともに、経営状況や各部署の実績等、必要な情報の共有を行ったことを記載しております。

次に、小項目の5、収入の確保につきまして説明させていただきます。

まず、医師及び看護師の充実につきましては、せんだって7ページから9ページにかけてご説明いたしましたので割愛させていただきます。

次に、7対1入院基本料の維持につきましては、現在も7対1入院基本料を引き続き維持できているところです。

次に、DPC診断群分類包括評価制度の活用については、DPCデータについて定期的に情報を提供することを記載しております。

次に、エ、入院については、入院患者数の増加、病床利用率の向上及び平均在院日数の短縮、1人1日当たり入院収益の増加、外来については1人1日当たり収益の増加、各年度の入院患者数については前年度の患者数を下回らないこととすると中期計画では定めております。

こちらの実績については、次の14ページのほうをごらんください。

平成26年度以降の各項目の実績を記載しておりますが、特にグラフのほうでは、1人1日当たり入院収益と病床利用率についてお示しさせていただいております。

1人1日当たりの入院収益、いわゆる診療単価につきましては、平成26年度の時点では5万円をやや切る数字でしたけれども、平成30年度、今年度につきましては5万8,000円という見込みとなっております。中期計画では5万5,000円を見込んでおりましたので、計画を大幅に超える数字となっております。

また、病床利用率につきましては、過去4年間70%前後で推移しておりましたが、今年度については80.0%の見込みとなっております。ただし、こちらは、最初にご説明し

ましたとおり、7月31日時点での実績に基づく数字ですので、今後の稼働率の上昇等に  
伴ってさらに数値が改善していく可能性がございます。

なお、グラフにはお示ししておりませんが、1人1日当たりの外来収益につきましても、  
平成26年度は1万858円であったところ、今年度につきましては1万3,000円を見  
込んでおります。こちら中期計画では1万2,000円を見込んでおりましたので、今の  
ところ、計画値を上回る数字を見込んでいるところでございます。

次に、15ページをお願いいたします。

オ、高度医療機器の稼働率の向上、こちらにつきましては、高度医療機器（CT、MR  
I）の稼働率の向上を図りました。

また、カ、診療報酬の改定や健康保険法等の改正への的確な対処と診療報酬の請求漏れ  
や減点の防止、こちらにつきましては、返戻・減点情報を3病院間で共有し、減点の防止  
に努めたこと、また、入院案内時の高額療養費限度額適用制度など公費負担医療制度の説  
明、入院同意書の保証人確認を徹底したことを記載しております。

キの未収金の未然防止と早期回収につきましては、支払い遅延者に対して文書及び電話  
催告、戸別訪問、分納誓約等を継続実施していることを記載しております。

次に、小項目の6、支出の節減につきまして説明させていただきます。

アの後発医薬品の採用促進につきましては、今年度の実績見込みを30.0%としており  
ます。中期計画では25.0%を計画値としておりましたので、計画値を超える実績値とな  
る見込みです。

イの薬品及び診療材料における同種、同効果のものの整理、購入方法の見直し及び過剰  
な在庫の防止による死蔵品及び期限切れ廃棄品の削減につきましては、薬品及び診療材料  
における同種、同効果のものの整理及び3病院間での品目の統一を進めてまいりました。  
また、病院間で期限切迫品を融通することにより、期限切れ廃棄品を削減いたしました。

ウの委託内容、委託先及び契約方法等を全般的に見直すことによる既存の業務委託の適  
正化、並びに効率化が見込める業務における新規の業務委託の推進につきましては、委託  
業務検討委員会にて新病院での委託業務の見直し、集約について検討を行ったことを記載  
しております。

16ページをお願いいたします。

エ、医療安全の確保、医療の質や患者サービスの向上等に十分配慮した上での業務の効  
率化、業務量の適正化による人件費の節減に取り組み、小項目5の収入の確保とあわせ、



人件費対医業収益比率50%台の達成に努めるという項目につきまして、人事評価結果に基づき賞与支給額及び昇給号俸数に反映させていること、法人業績を勘案し、業績手当(賞与)の支給額を削減していることを実績として記載しております。

人件費対医療収益比率につきましては、平成30年度の計画値が64.5%と定めていたところ、現在の見込み値が64.4%となっており、ほぼ計画値どおりの実績を達成できる見込みとなっております。

次に、17ページをお願いいたします。

中期計画の大項目の第3、予算、収支計画及び資金計画につきまして説明させていただきます。

中期計画では、公的な病院としての使命を果たしていくための経営基盤を確保するため、大項目の第2、業務運営の改善及び効率化に関する事項で定めた計画を確実に実施するとともに、適切な予算管理を行うことにより、中期目標の期間中に経常収支比率の改善及び減価償却前利益の確保を目指すとして定めております。経常収支比率については、右の業績のところ過去5年間の実績値及び今年度の見込み値を掲載いたしております。平成30年度につきましては、新病院が開院したことにより、減価償却費が膨らんだことを踏まえ、89.1%の見込み値となっております。

次に、大項目の第4、短期借入金の限度額につきましては、限度額は18億円となっております。平成30年度、中期計画終了時点での借入残高は、現時点で5億4,000万円を見込んでおります。なお、短期借入金の発生理由としましては、当面の支払い能力を超える債務への対応、実質的な資金不足を理由として挙げております。

次に、18ページをお願いいたします。

大項目の第5、出資等に係る不要財産または出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産がある場合には、当該財産の処分に関する計画、こちらにつきましては該当なしとなっております。

大項目の第6、出資等に係る不要財産、または出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産以外の重要な財産を譲渡し、または担保に供しようとするときはその計画、こちらにつきましては、新病院開院後に閉院となる桑名西医療センターについては、跡地活用方針・基本構想に基づき、跡地活用事業を進めていることを実績として記載いたしております。

大項目の第7、剰余金の使途。決算において剰余を生じた場合は、病院施設の整備また

は医療機器の購入等に充てるとしてしておりますが、こちらにつきましては該当なしとなっております。

大項目の第8、料金に関する事項、こちらにつきましては、新病院開院に伴い、桑名市総合医療センター使用料及び手数料規程の改正を行ったところでございます。

19ページをお願いいたします。

中期計画の大項目の第9、桑名市地方独立行政法人法施行細則第4条で定める事項のうち、中項目の1、地域の医療水準向上への貢献に関する計画としまして、臨床研修医や実習生を積極的に受け入れることを定めております。実績としましては、地域の医療水準向上への貢献としまして、看護学生、薬学生、リハビリ科学生等の実習受け入れを行っていること、また、今年度の実績ではございますが、院内に救急ワークステーションを設置し、救急救命士の実習受け入れを行うことを記載いたしております。

次に、中項目の2、医療機器の整備に関する計画、高度医療機器の整備を適切に実施することとしております。こちらにつきましては、高度医療機器を計画的に整備及び更新を行ったことを記載しております。

中項目の3、新病院移行の準備に関する計画、新病院移行までのスケジュールを段階的に策定することとされております。こちらにつきましては、診療材料、委託業務、医療機器整備、情報・運営計画、移転計画、以上5つの検討委員会を設置し、新病院に向けて委託業務の見直しや医療機器の選定、新病院における運営計画の策定等を実施したことを記載いたしております。

次に、中項目の4、積立金の処分に関する計画、中期計画期間の繰越積立金については、病院施設の整備または医療機器の購入等に充てるとされております。こちらについては該当なしとなっております。

次に、中項目の5、法人が負担する債務の償還に関する事項、法人が桑名市に対し負担する債務の元金償還を確実に行うこととされております。こちらにつきましては、法人収支計画に基づき、桑名市に対し負担する債務の償還を確実に行ったことを記載いたしております。

以上が第2期中期目標期間につきましてはの事業報告書【見込】の説明でございます。よろしくをお願いいたします。

【豊田委員長】 ただいま総合医療センターから説明がございましたが、評価委員会として第2期中期目標期間における業務実績についての見込み評価をこれからしていただ

きます。業務実績に関する評価の基準に基づいて評価しますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、まず、業務実績報告書の1ページ、大項目、市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上から順番に評価をしてまいります。

それで、先ほどの事務局の説明によりますと、大項目、市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上についての平成26から29事業年度の評価結果の平均はB評価、おおむね計画どおりに進んでいるとなっております。また、平成30事業年度の見込み評価の案としてもB評価ということですが、評価委員会として、この評価につきましていかがでしょうかと、そういうことですが、そういうことで、このBという評価案、これにつきましてご意見をお伺ひしたいと思ひます。それから、また、先ほどの説明のありました事項につきまして、あるいはそれ以外の事項でも結構ですが、法人に対してご質問、ご意見がございましたら、よろしくお願ひをしたいと思ひます。

ほとんどの評価項目で、30年度の見込み評価、結構いい数値が出ておまして、期待できるのかなと、よく頑張っておられるのかなというふうにはぱっと見たら思うわけですが、いかがでしょうか、そのあたり。

【木村委員】 過去4年間というような古い病院のときで、平成30年度が新しくできた病院の見込みなんです、あまり過去の3病院のときの評価を参考にするよりも、逆に、平成30年度の新しい病院の中での評価に重点を置いて評価したほうがいいと思うんですけど。

【豊田委員長】 ということは、どういうことでしょうか。

【新山（経営管理課課長）】 議題には上げておりませんが、8月までの簡単な業績をまとめてきましたもので、もしお時間をいただけるようでしたら、この場でパワーポイントのほうで説明させていただこうと思ひますが、よろしいでしょうか。

【豊田委員長】 そうでしょうか。先にそれをお聞きしますかね。じゃ、先にお願ひします。

【新山（経営管理課課長）】 そうでしたら、引っ越しのNHKで放送されました放送もありますので、それをさせていただいてから、業績の説明をさせていただいてよろしいでしょうか。

【豊田委員長】 お願ひします。

【新山（経営管理課課長）】 じゃ、前で失礼いたします。

【新山（経営管理課課長）】 まず、NHKで報道された開院の様子でございます。

（ビデオ上映）

【新山（経営管理課課長）】 引き続き、パワーポイントのほうで、8月までの業績を説明させていただきます。

まず、30年度の稼働状況でございますが、患者数でございます。左側が延べ入院患者数、右側が外来の患者数です。オレンジの棒グラフが実績でございます。青の折れ線グラフ、こちらが予算、目標値でございます。

まず、左側の入院患者数、こちらをごらんください。当初、5月、まだスタートのときは患者数も絞ってございましたので、低い稼働率でございましたが、8月、8,973人の延べ患者数で、稼働率としまして90.2%という状況でございます。

また、右半分の延べ外来患者数、こちらは少し目標値とは開きがございますが、単価が大きく上昇しましたので、収益としては大きく変動はございません。

こちら、単価でございます。左半分が入院の診療単価、右半分が外来の診療単価でございます。単位は円でございます。目標値にしました入院の5万5,000円、こちらは先ほど北野の説明にもございましたが、大きく上回っております。8月の時点で5万8,678円という状況でございます。また、外来のほうにつきましては、1万2,000円という目標を立てておりましたが、こちらは5月から1万3,000円を上回る数字となっております。

こちら、稼働率でございます。稼働率は救急搬送の受け入れ数でございます。まず、左半分の病床稼働率をごらんください。こちら、8月になりまして、ようやく目標値の90%を超える90.2%まで上がってまいりました。隣の右半分が救急搬送数でございますが、こちらは青線、昨年度の実績を入れておりますが、昨年度の実績、8月は310件を大きく上回ります393件、7月は400件を大きく上回る件数となっております。

この状況で収支がどうかということでございますが、折れ線グラフ、こちらは予算値でございます。8月につきましては、予算を上回りまして、予算が8億4,100万円でありましたが、8億7,700万円まで収益は上がっております。昨年度の平均がおよそ月平均7億8,000万円程度でしたので、1億弱、月単位で上がっているという状況でございます。

しかし、費用のほうは、逆に、引越等々で余分な費用がかかりまして、今のところ、予算を少し上回った状況が続いておりますが、ようやく8月の時点で費用のほうもおさま

りつつあり、予算に合ってきた状況でございます。

見込みより悪かったのですが、キャッシュフローは、ようやく8月で黒に転じております。この先、収益が上がってくると思いますので、このままキャッシュフローでも上昇していければと思っております。

簡単ではございますが、8月までの実績報告でございます。

**【豊田委員長】** ありがとうございます。

先ほどの報告も含めまして評価をいただければなと思いますが、いかがでしょうか。先ほどのご意見ですと、B評価が妥当かどうかということについては、どのようにお考えになりますでしょうか。過去じゃなくて今年度で評価すべきだという、その場合、よいほうに評価するのか、悪いほうに評価するのか。

**【木村委員】** 今年の分ですね。

**【豊田委員長】** 今年の分。

**【木村委員】** いいんじゃないですか。

**【豊田委員長】** いいでしょうね。よく頑張ったということで。

**【木村委員】** これが前と一緒にだったら、何のためにしたかわからないですよ。

**【中澤委員】** 達成しておれば、いい評価ですね。

**【豊田委員長】** 場合によっては、Bより1段上げてもいいというご意見も出てくるかもわかりませんがね。先生、どうなのでしょう。

**【青木委員】** 一番最初、説明を聞かせていただいたときに、この評価をした上で次の中期計画の土台としたいと、この評価によって次の中期目標を決めていきたいということでしたので、単なる30年の評価だけではなくて、目標と足らなかった、例えば、2ページ目の実績見込みに5,000人が4,300人、増えてはきておるんですけども足らなかったと、だから、今後、次の中期目標はどこを改めたらこれが直るのかと、そういうことが、先ほど聞いておまして、かなりの部分、かなり実績はよくはなっておるんですが、これ以上、もっとよくするためにどうしたらいいのかということもここでいろいろ出さなにかんのかなと思うんですが、その辺はいかがなのでしょう。

**【豊田委員長】** ありがとうございます。

です。過去の、今までのデータに比べると増えているんですけど、増えているにしても、新しい病院になったことによって期待される数値に至っていない部分があるのではないか、そういうご意見ですよ。全くおっしゃるとおりだと思います。

【青木委員】 例えば、救急車、2ページ、私は桑名で医療をしていますので、すごく実感として、ここに出された循環器科と脳外科、これはすごく受け入れがよくなったと思っ  
てありがたいと思っていますが、科によっては、まだまだ受け入れが悪い科があります  
ので、その辺を今後の予定として強化していかないかとか、そういうところも今日、出  
せれば、出したほうがいいかなと思います。

【豊田委員長】 ありがとうございます。

それで、僕のほうからの質問ですが、病床稼働率は次の大項目でしたかね、すみません。

【宗近（理事）】 14ページです。

【豊田委員長】 14ページは、業務運営の改善のほうになっちゃうんですけど、確認  
なんですけど、病床稼働率の分母、これは各年度、同時分母で計算しておられますかね、  
一定の分母でやっていますか。

【北野（経営戦略室室長）】 過去4年間につきましては、3病院のそれぞれ稼働病床、  
許可病床ではございませんで、稼働病床438をベースに計算しております。今年度につ  
きましては321床と、7月末時点での稼働病床を基準に計算いたしております。

【豊田委員長】 321ね。分母が違うということがあるわけですよ、このデータ上。  
ありがとうございます。

いかがでしょうか。新病院になって、古い病院のときよりかはほとんど全て上がってい  
るわけですが、新病院にしてはもうちょっと頑張ってもらってもいいんじゃないかとい  
うところもあると思いますが。

【青木委員】 1点、よろしいですか。

最後のほうにいろいろ説明していただいて、10ページぐらいから、例えば、アンケー  
トを行った、あとは、ヒヤリ・ハットの収集、分析をした、この結果がどうであって、次  
期中期目標としてどういうふうにしたいかという目標を立てないかと思うんですけれ  
ども、それはもう立っておるんでしょうか。ただやったということだけで終わっておる  
んでしょうか。

【豊田委員長】 これはこの前の評価でご指摘があった事項ですね。その点について、  
この評価委員会の見解は市長さんにお伝えしてございます。ですので、そういうことを次  
の中期計画に反映していただかないといけないということであるわけですが、そういう  
ことですので、今までの年度評価の評価委員会の意見プラス今日の評価委員会の意見、あ  
わせて参考にいただきまして、次期中期計画を策定していただく、そういうことになり

ますよね。

前はヒヤリ・ハットもありましたし、患者の待ち時間の評価方法は実測でやらないといけないとか、いろいろありましたよね。そういうことを次期中期計画では改善をしていただく必要があると、そういうことでございます。

そういうことがありますので、年度評価で私どもがした評価プラス、もしつけ加えるようなご指摘がございましたら、ぜひ今日、指摘していただきたい。

【青木委員】 もう一つ、よろしいでしょうか。

紹介率、逆紹介率のところなんですけど、先ほどスライドで説明していただいた費用で、1人当たりの単価が上がっているということなんですけど、本来ならば急性期をメインでやっていただくところですので、数を多くして入院期間を短くする、それで、1人単価を下げ、急性期の数を多くして診ていくというようなことで考えると、逆紹介率がちょっと低いような気がするんですけど、この辺についてはどうお考えですか。

【豊田委員長】 逆紹介率、もっと高くてもいいのではないかというご質問でございまして、どうですかね。逆紹介率、上がっていることは上がっているわけですが。

【市川（病院長）】 病院としましても、かかりつけ医と連携ということ、これは打ち出してこうと思っていますので、今後、逆紹介率も上がっていくものと思いますが、まだまだ新しい病棟もあけるとございまして、完全にそれをまだやる時期ではないかなと思っております。それが落ちついた時点でかかりつけ医と病院との連携というのをもう少し強く打ち出して、逆紹介を進めていきたいと思っております。

【豊田委員長】 逆紹介率は平成29年度が64.3%で、今年度の実績はやや下がっているんで、だから、旧病院のときよりもやや下がっているんで、その点については指摘をさせていただいたほうがいいかなと思いますね。逆紹介率の向上にご努力いただきたいということで指摘をさせていただきたいと思っております。

ほか、評価委員の皆様方から何か。

【中澤委員】 私、ちょっとわからない、退院調整患者数というのはどういうあれ。

【北野（経営戦略室室長）】 退院調整患者数と申しますのは、退院困難な患者さん、要は、身寄りがないですとか、転院先が決まらないですとか、そういった入院患者さんについて、医療相談室、いわゆるソーシャルワーカーという者が介入して、相談に乗った件数ということでございます。

【中澤委員】 それは、少ないほうがいいということ。

【北野（経営戦略室室長）】 というより、なかなかどれぐらいが適正かというのは難しいところなんですけれども、逆に……。

【中澤委員】 これ、何か評価するあれがあるんですか。

【北野（経営戦略室室長）】 急性期病院として機能するためには、急性期を脱した患者さんを施設ですとか、あるいは療養専門の病院等に順次移っていただくように医療相談室がまた……。

【青木委員】 努力して部屋をあければ、新しい患者が入ってくる、満床状態ですので、急性期を済んだ人は努力してつくり出すと、それも努力の結果ですから、多ければ多いほうがいいんじゃないかと。

【中澤委員】 これは多いほうがいいということですね。

【市川（病院長）】 これは、努力した結果、平均在院日数が10日を切っておりますので、収益、そういった直接つながるものと思います。

【中澤委員】 収益には結びつくということですね。わかりました。

【市川（病院長）】 単価が上がれば上がりますので。

【青木委員】 あともう一つ、よろしいでしょうか。

連携パスの問題ですけれども、大腿骨と脳卒中、これは受け入れ側の一般医療機関のほうも悪いんでしょうけれども、もうちょっと項目を増やせないでしょうか、糖尿病ないし循環器とか。

【市川（病院長）】 それも落ちついた時点で、順々やっていきたいと思っています。

【青木委員】 そういう方向で、それも今度の中期目標の中に入れていただければ。

【豊田委員長】 ぜひ。これも指摘事項で、本日、書かせていただきたいと思います。

【市川（病院長）】 とにかく引っ越しということに関しまして、かなりの患者数を絞るということがございますので、そういうことが全て落ちついた時点で徐々にやっていきたいなと思っています。

【豊田委員長】 ほか、何かございませんでしょうか。

【竹田（理事長）】 先ほど、病床数の分母の問題がありまして、321床だったんですね。改修棟の工事が終わりました、実は今週から、79床ができ上がりまして400床になったんです。だから、病床数がやっと全部そろいまして、あとほかの透析室とか、リハビリとか、健診センターとか、みんな新しくなりまして、私たちは10月からがスタートだと思っています。今までは、どうしてもそういうことの準備段階でしたので、これから



どれぐらいの業績が上げられるかというのが一番大事なところで、やっとそのところまで来たという、私たちはそういうふうを考えております。

【豊田委員長】 10月がほんとうのスタートの時点であったということですね。

ほか、何かございませんでしょうか。

それでは、先ほどのB評価について、最終的にB評価でいいかどうか判断を仰ぎたいんですが、非常に改善した項目が並んでいるんですけども、先ほどのように、もっと改善していただきたい項目が幾つかあるということなので、BをAにするというのはちょっと難しいかなということで、B評価ということによろしいでしょうか。

ありがとうございます。じゃ、B評価ということにさせていただきます。

次に、次の大項目、業務運営の改善及び効率化についても、平成26から29事業年度の評価結果の平均はB評価、おおむね計画どおりに進んでいると、また、平成30事業年度の見込評価の案としてもB評価ということですが、この点につきまして評価委員会のご意見をお伺いしたいと思います。この項目には収支のデータも含まれてきますので、その点も含めてご意見をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

【中澤委員】 13ページに前年度患者数を下回らないことと書いてあって、入院患者数は減っているんですね。単価は上がっているということで、それでいいんでしょうかね。先ほども青木先生がおっしゃられたのに関連するのもわかりませんが、実際どうなのかなと思うんですが、それと、あと二、三、一緒に。

経常収支率というのが下がって……。

【豊田委員長】 下がっています。

【中澤委員】 これはどうなんですかね。計画のところに目標が何も書かれて、書いてあるのかな、書かれていないような、以前からあるんだろうと思うんですが、それから、一番最後の20ページなんですが、償還はちゃんとしていますからいいですよ、キャッシュフローから見ると、実際、出るのかなということです。この3点。

【豊田委員長】 いかがでしょうか。

【北野（経営戦略室室長）】 まず、入院患者数につきましては、平成30年度につきましては、当初9月までが病床数が321しかなく、昨年度までより120床ほど少ないところから、やむを得ず、数値が下がっているものでございます。

次に、経常収支比率につきましては、中期計画のほうで計画値というのが策定されておりましたので、計画値としては掲げておりません。実績のほうにつきましては、今

年度、新病院が開院したことによりまして、新病院の建物、設備の分の減価償却費が発生しておりますので、数値としては見た目が下がっております。

最後、償還につきまして。

【新山（経営管理課課長）】 償還につきましては、当年度、30年度につきましては、かなり厳しい状況ですので、先ほどの17ページ、借入残高の見込みで5億4,000万円、借り入れが残るといふふうにしてしておりますが、実は、30年度、31年度は短期借入金が残ります。これが実績の資金不足となります。ただ、計画では、翌年度、平成31年度から、キャッシュフロー上、黒字に転換すると考えておりますので、それ以降は問題なくこの短期借入金もなくなっていくと考えております。

【豊田委員長】 お示しいただいていたかと思うんですが、償還計画といえますか、今後、毎年何億円返さないといけなくて、それで、今後の収支の予想といえますか、なかなか新病院になると難しいかもしれないんですけど、8月の実績とか、そこに基づく、ある程度、正確なといえますか、予測がつきますよね。当初も出していただいていたと思うんですが、改めて、何年後に償還ができて、何年後に黒字化をして、何年後にどうなるかという、そういう計画、予測、シミュレーション、その辺がどうなっているかというのは。

【新山（経営管理課課長）】 今年度が中期計画の最終年度になりますので、また、近々、評価委員会のほうで新たな中期計画のシミュレーションをさせていただこうと考えております。しかも、今の売り上げ収益のほうですけれども、8月が8億7,700万円とありましたが、前回の中期計画で定めました新病院開院後の営業収益、こちらが108億円程度、見ておりました。月間約9億円になりますので、ほぼ近い数字まで来ていると思います。

ただ、現状では費用も少しかかっておりますので、このあたりを含めまして、業務改善が必要かとは考えております。

【豊田委員長】 短期借入金しか書いていないんだけど、長期の借り入れの元本の返還というのも始まっているわけですか。

【新山（経営管理課課長）】 実際、まだ建物に関しましては5年据え置きがありますので、もう少し後から元金償還が始まります。

【豊田委員長】 後から始まるわけね。そのときにどのぐらい償還せんといかんのかとか、その辺のシミュレーションもぜひお願いします。

【新山（経営管理課課長）】 そちらもお示しさせていただこうと思っております。

【豊田委員長】 この辺、お金のことにつきましては、木村委員から何かご質問をお願い

いしたいと思うんですけども。

【木村委員】 お金のことというよりも、経常収支比率で評価するような形になっているんですが、減価償却前の利益の収支比率というものを、過去の実績と平成30年度、示していただけたら、独法会計だと、減価償却の戻し入れとかいうので、建物の償却というのはあまり重要視していないので、そうすれば、もっと妥当に評価できるんじゃないかなと思うんですけど。

【新山（経営管理課課長）】 また、木村委員からご指摘がありましたように、次回からは償却前利益をまた数字として挙げさせていただこうと思います。

また、今、ご指摘がありました償却の戻し入れでございますが、今回の新病院に関する借り入れに関しましては、減価償却が資本助成となっております、全て建物に関するものは資本金に入っておりますので、利益の経常費として戻し入れがない状況となっておりますので、こちらは資本のほうで増強されているという形となっております。

【豊田委員長】 ほかに何かご質問、ご意見、ございませんでしょうか。

これ、NHKでも、放映されたとおり、本当に官民が一緒になって統合された医療センターで、全国的にも注目されていて、非常に奇跡的にうまくいった病院だと思っていて、本当に素晴らしいなと思っていて、非常に医療レベルも上がってきて、この辺も素晴らしいわけですけども、あとは経営さえうまくいけば何の言うこともないというような感じになりますので、ぜひとも頑張って経営のほうもお願いしたいなと思いますけどね。

それでは、この評価、Bとなっておりますけれども、いかがでしょうか。何かご意見、ございますか。

【伊佐地委員】 Bでいいんじゃないかと思います。

【豊田委員長】 やっぱり経常収支比率、減価償却費の関係でこういうことになっているんですけど、もうちょっと長期のシミュレーションにさせていただかないと何とも言えないという、そんな感じですよ。ですので、今回B評価ということにさせていただきたいと思います。

それでは、以上で大項目評価が終わりましたので、続きまして、第2期中期目標期間における業務実績全体の見込み評価ということに入らせていただきます。

先ほどの大項目の見込み評価をしていただきましたが、その他の中期目標の内容を合わせまして、全体としての評価はいかがでしょうかということでございます。

次期中期目標は、来年平成31事業年度から5年間の目標になりますけれども、今回の

見込み評価はその目標に反映させるためということですので、評価に加えて、先ほどのようなご意見、医師会長さんのようなご意見をぜひともよろしくいただけないかと、そんなふうに思います。

全体としての評価、一応B評価はB評価なので、全体としてもBということになるのかなと思いますけど、B評価ということでもよろしいでしょうかね。B評価ということですが、何か全体を通して言っておいたほうがいいのかというふうに思いますが。

【中澤委員】　きのう、桑名市役所がサイバー攻撃どうのこうのってホームページにありましたけど、市民病院は別に、特に何もなかったですか。

【竹田（理事長）】　病院のほうですか。

【中澤委員】　病院の。四日市市役所と桑名市役所がサイバーがどうのこうのって言っておったですね。

【竹田（理事長）】　昔、半年ほどか、それらしいのは一回ありましたが、それは未然に防ぎましたから。

【中澤委員】　それと、駐車場はどうです。僕も一回、入らせてもらったんだけど、ちょっと手狭なような感じがするんですが。

【豊田委員長】　駐車場についてはどうなっているんでしょうかね。

【宗近（理事）】　開院前に一番心配したのが駐車場でした。210ほどしか、今ありません。今、解体が終わったら増えるんですけど、おそらくあの周りに車が渋滞して近所に迷惑かけるんじゃないかということで、職員を最初ものすごく配置しまして、患者さんも今1,000人ぐらいになっていますので、それにいろんな手を打ちまして、最初は7時前から患者さんが病院に来られていましたけど、診察予約時間の1時間半前でないとカードが通らないシステムを導入したり、そういうことをいろいろやって、思ったほど、これは驚いたことなんですけれども、1年、その前、駐車場のない病院でしたので、患者さんがなれていただいているというのものもあるのかもしれませんが、今のところ、ちょっとの時間帯、10分ぐらい、3つの駐車場が満車になることがありますけれども、それ以外はうまく回っているというのが今の状況でございます。

【豊田委員長】　予約時間の1時間半前でないと受け付けしないと、これは大学病院でもそういうふうにやっていたよな。あれで大学病院の駐車場は非常にスムーズに回るようになったんじゃないかと思いますね。

【宗近（理事）】　わりと、1回患者さんがかかられるとそれをわかっていただくので、

最初はだめでしたけど、2カ月ほどたったら、朝も患者さんがものすごく座って待たれるということも今はなくなってきました。

【豊田委員長】 大学病院の前の23号線、いつも朝、めちゃくちゃ混んでいたんですが、あれもすきましたね。最近、非常にスムーズに大学病院にアクセスできて、駐車場も余裕を持ってとめられるという感じになっていますね。

【宗近(理事)】 それと、もう一つは有料にしたこと。患者さんは5時間まで100円、最初、すごく苦情が出ましたけれども、今は全く苦情はありませんが、それも一つ、駐車場に長時間とめられないというのに少し影響しているのかなと思っております。

【豊田委員長】 ほか、何か、言っておいたほうがいいのかのようなことはありますか。

【伊佐地委員】 私のところ、外科が1外と2外が一緒になって、ますます頑張っていたかかないといけないので、手術件数、もう少し増えるんじゃないかなと思うんですけど、見込みが2,700件で、3,000件は超えるぐらいに、病院収益なんかも、手術件数、大きいですから。

【市川(病院長)】 4月、5月というのは、非常に引っ越しで手術件数が少ないと言っていたので、そのデータが入っておりますので、こういうデータになりますけれども、それを除けば行くと思います。

【伊佐地委員】 おそらくもっとそれよりは。

【豊田委員長】 そうですね。3,000件ぐらいになる。

【竹田(理事長)】 救急車も5,000件はいくかなと思っております。4、5が非常に低いデータが、4、5、6が入っていますので。引っ越しのときのデータは非常に低いので、外科は一緒になってすぐに2割増しになりましたので。

【竹田(理事長)】 救急車がものすごく増えた。

【市川(病院長)】 外科も問題なく。部長同士2人でやっておりますので。

【竹田(理事長)】 理想的ですよ。第1外科と第2外科が一緒にやるなんて、昔は考えられなかったですからね。みんな、びっくりしています。

【豊田委員長】 官民が統合したということも非常に全国的に珍しいですけど、異なる医局が一緒になっているというのは非常にモデルになりますよね。

【市川(病院長)】 おそらく初めてと思うんですよね。

【豊田委員長】 初めてかもわかりませんね。

【市川(病院長)】 外科では、内科が当直できる人間が増えて、非常に救急車が受け入

れられると、その中で、緊急手術も増えてくると、いい循環で回っているんだと思いますね。

【青木委員】 麻酔科医は増えたんですか。

【竹田（理事長）】 常勤も1人増えて、それから、愛知医大から毎日来て、必要なとき毎日来てくれます。

【市川（病院長）】 また、そういう緊急で来てくれる人の会社と契約も結んでいて、確保しようかなと思っています。

【豊田委員長】 あと、何か。

【木村委員】 確認ですけど、先週の日曜日の台風24号じゃなくて、その前の21号のときに、下町のほう、停電したとか、あったんですけど、当然、無停電の装置があつて、稼働されたと思うんですが、それは大丈夫ですか、最新病院。

【市川（病院長）】 そこは、当然、3日間は自家発電でやっていますので。

【宗近（理事）】 停電した場合に、72時間は最低でも大丈夫なように、それと、潜水艦方式というやつをとっていますので、3階以上に上げてあるのはそのため、水が来ても大丈夫のようになっておりますし、なおかつ、すごく皆さんが何でと言われるんですけど、エレベーターが3階からのエレベーターもあるんです、1階からではなくて。それは、もしも5メートルぐらいの水が来た場合に、3階なら絶対大丈夫なんです。電気が自分たちで自家発電で、そういうのも岡山が水につかったときに宣伝したいなとも思ったんですけども、何となくよろしくないかと思って、もうちょっとしたら宣伝しようかなと思っています。

【豊田委員長】 ちなみに、桑名市、避難勧告の地域が結構たくさんありましたよね。避難勧告が出た地域に病院のあるところに入っているんですか、入っていないんですか。

【青木委員】 この間、精義地区は入っていました。ただ、何もそう大したことはなかったです。

【竹田（理事長）】 ですが、津波の被害は最初は想定5メートルやったんですよ、桑名市は。それで、1階、2階を全部駐車場にしたんです。ところが、その想定が変わりまして、2.7メートルになりました。

【豊田委員長】 まだ下なんだ。

【市川（病院長）】 1階だけはつかりますけれども、2階の駐車場は全くつからないと。そこへ地域の方が逃げてくることもできますし、そういう使い方できるのかなと。

【豊田委員長】 ボートか何かは用意してある？ していない？

【市川（病院長）】 ボートはないです。

【豊田委員】 何か用意しておいたほうがいいですよ、やっぱり。

【中澤委員】 参考にお聞きしたいんですが、自家発電は、そうすると、3階に置いてあるんですか。

【市川（病院長）】 5階ですね。

【中澤委員】 それで、72時間というのと相当の、これは軽油、何でやっているんですか。

【市川（病院長）】 重油で下からくみ上げるんですよ。

【中澤委員】 重油。下からポンプ、吸い上げる。そうすると、下から吸い上げても、つかっちゃうとできないのでは。

【宗近（理事）】 いや、その下が潜水艦方式。そこを潜水艦にしてあるので。

【市川（病院長）】 重油ポンプが大丈夫ですから。

【宗近（理事）】 ですから、水さえ引けば、優先的にまた重油が来ますので、停電していても、どんどん足していけば、ずっと。

【中澤委員】 72時間って、相当の量ですよ。

【宗近（理事）】 相当の量になります。

【中澤委員】 僕らのところは、せいぜい支店だと8時間ぐらいしかできない。本店だともう少しやれるんですけど。

【市川（病院長）】 水も3日分ぐらい確保してありますので。

【中澤委員】 そうですよ。相当のタンクだなと思って。

【豊田委員長】 よろしいでしょうか。

それでは、全体としてもB、丸ということにさせていただきます。

続きまして、次の議事、中期目標期間の終了時の検討及び措置について、事務局から説明をお願いします。

【黒川（保健福祉部次長）】 それでは、中期目標期間終了時の検討及び措置（案）についてご説明いたします。

資料の5の中期目標期間終了時の検討及び措置（案）についてをごらんください。

この中期目標期間終了時の検討及び措置は、地方独立行政法人法に定められた手続きでございます。

まず、1、根拠法令でございますが、同法の第30条におきまして、「設立団体の長は、第28条第1項第2号に規定する中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する評価を行ったときは、中期目標の期間の終了時まで、当該地方独立行政法人の業務の継続又は組織の存続の必要性、その他その業務及び組織の全般にわたる検討を行い、その結果に基づき、業務の廃止若しくは移管又は組織の廃止その他の所要の措置を講ずるものとする。」とあります。また、第2項におきましては、「設立団体の長は、前項の規定による検討を行うに当たっては、評価委員会の意見を聴かなければならない。」とございますので、本日、評価委員会の議題とさせていただいているところでございます。

次に、2、中期目標期間終了時の検討及び措置（案）は、その検討及び措置の具体的な内容でございます。

まず、検討項目のうち、業務の継続または組織の存続の必要性についてですが、総合医療センターは、第2期中期目標期間において、年度ごとの業務実績に、中期計画の達成に向け、おおむね計画通りに進んでいるとの評価をいただいております。また、評価委員会を中心としたPDCAサイクルにより業務は継続的に改善されてきております。これらに加えて、今年度の新病院の開院によりまして、総合医療センターが地域医療に果たす役割はより重要なものになりますことから、その運営形態は、当然のことながら、地方独立行政法人の形態で引き続き業務を行うことが望ましいと考えております。

次に、その他その業務及び組織の業務の全般については、これまでの評価委員会におきましてご議論やご意見をいただいております。組織のあり方や組織及び業務の全般については、検討が重ねられてきたと考えております。

つきましては、これまでの議論を得た内容を反映させた次期中期目標を策定し、総合医療センターに指示することをもって所要の措置を講ずることとしております。

以上でございます。

**【豊田委員長】** ありがとうございます。

この評価委員会の役目といいますか、評価委員会が大変重い役割を持っているということとここに書かれておりまして、桑名市総合医療センターの経営形態、地方独立行政法人としてやっていくかどうか、そのところの問題ですね。業務の継続とか、組織の存続の必要性とか、そういった非常に重いことについても設立団体の長に対して意見を申し上げると、そういう立場にあります。



そういうことであって、ですので、次期中期目標期間においても、このまま地方独立行政法人の形態でやっていただくかどうか、だから、ここで廃止すべきだということであれば、当評価委員会が廃止せよというふうに市長に意見を申し上げることも、そういうこともあり得るわけですが、地方独立行政法人の形態を引き続き行っていただくと、それから、これまでの議論も踏まえた内容を反映させた、私どもの評価委員会の意見を反映させた形で次期中期目標を策定して総合医療センターに指示すると、こういう形でもって医療センターの業務を継続させてもいいかどうかと、そういうこととございます。ということとございますけれども、どうでしょうか。

【伊佐地委員】 これは5年ごとの。

【豊田委員長】 5年ごととございます。

何かご意見、ございますでしょうか。そういうことでよろしいでしょうか。

【青木委員】 ぜひ今の形態で続けていただいて、さらにまた進化したものになっていただきたいと思っております。

【豊田委員長】 ほかの委員、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

【木村委員】 PDCAサイクルで回す前に、従来の感じで満足度とか、いろんな統計のとり方があったんですけど、その辺をもうちょっと、ユニークでもないんですけど、実効性のあるような評価の方法とか基準とかで、総務省の独歩に出ているような、そういう指標だけじゃなくて、独自の自分たちのマネジメントに生かせるような指標を創意工夫されて、効率よく運営できるような改善をしていただきたいなと思う。

【豊田委員長】 ぜひ。

ほか、よろしいでしょうか。

それでは、中期目標期間終了時の検討及び措置の案につきましては、このようにさせていただきます。

それで、大体、今日のご意見をお伺いしていると、病院としては、物理的な病院の統合、一生懸命しておられて、非常に実績も上げておられるんですけども、今までの評価委員会が年度ごとに指摘していた事項で、まだ完全に実現、改善しておられないこともあると、そういうことについてはぜひとも改善していただきたい。それプラス、今日も幾つかご意見が出てきましたので、そういうことについては、ぜひその改善を盛り込んだ中期計画をつくっていただきたいということとございます。

そして、やはり経営のことを評価委員会の皆さん、非常に気にしておられるので、その

点についても、ぜひとも経費の節減も含めまして、頑張っていたきたいなど、大体そんなふうなことになると思うんですけどね。

あと、具体的なまとめにつきましては、事務局で今日の議論をまとめていただきまして、委員長一任ということにさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。一任ですけれども、もちろん、委員の皆様を確認をさせていただきますので、よろしくお願ひします。その上で市長に報告というふうにさせていただきます。

それでは、本日の議事はこれで終了させていただきたいと思います。

それでは、事務局のほうにお返ししますので、よろしくお願ひします。

【黒川（保健福祉部次長）】 ありがとうございます。

事務連絡のほうを最後にさせていただきます。

中期目標の案の検討につきまして、10月下旬に評価委員会の開催を予定しております。ご多用のところ恐縮ですが、よろしくお願ひいたします。

それでは、以上をもちまして、平成30年度第3回地方独立行政法人桑名市総合医療センター評価委員会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

— 了 —